

2019年3月期 第4四半期決算発表 地域別市場環境と見通しについて



2019年4月24日

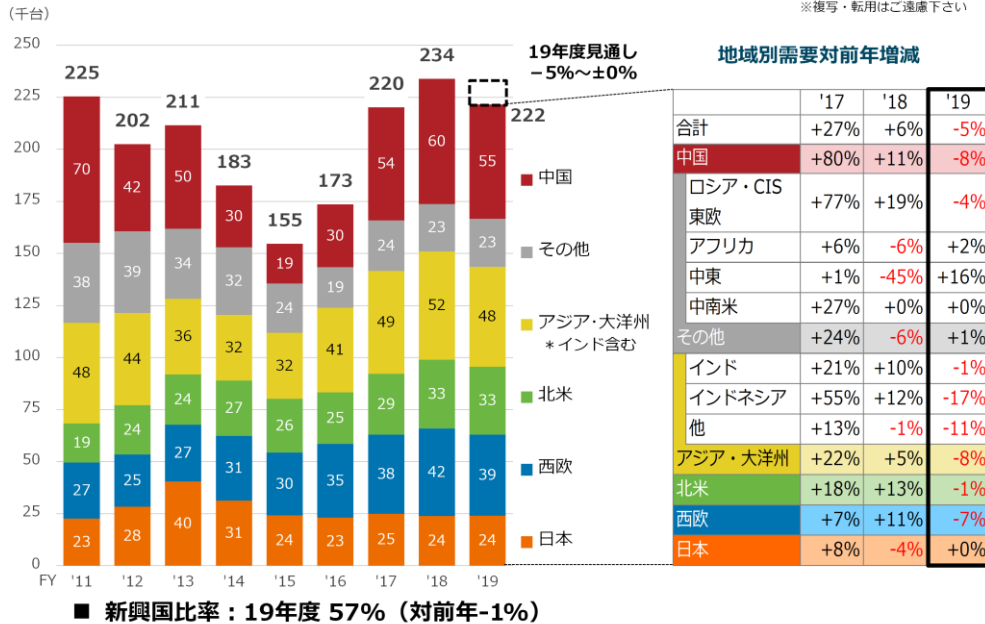
 日立建機株式会社

執行役 営業本部長

先崎 正文

© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2019. All rights reserved.

※当社推定 中国国産メーカ含まず
※複写・転用はご遠慮下さい



© Hitachi Construction Machinery Co., Ltd. 2019. All rights reserved.

ー18年度の油圧ショベル世界需要見通しについて、対前年14,000台増の234,000台となる見通し。地域別では、上から順に

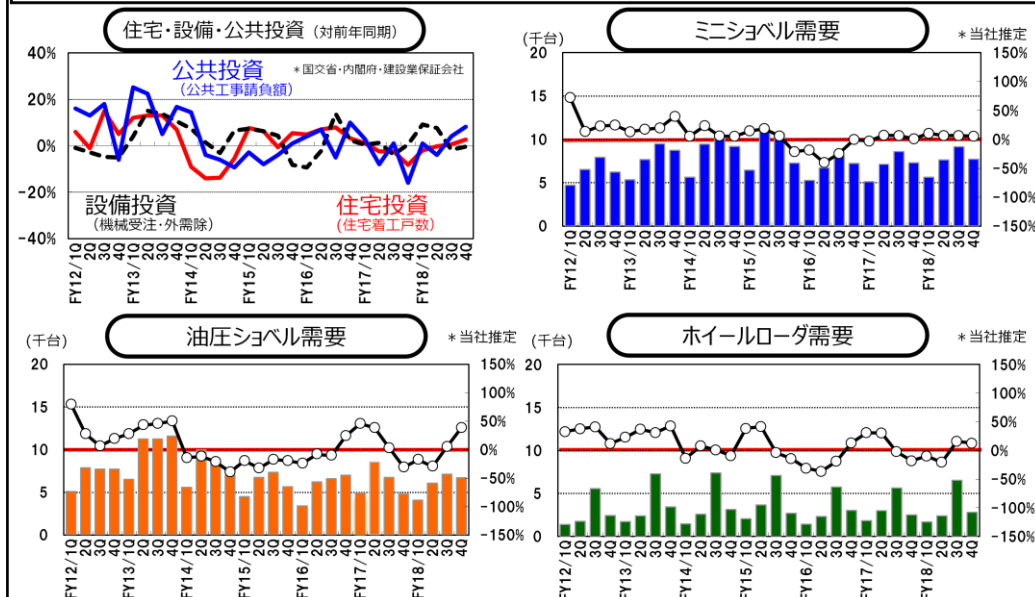
- 中国は11%増の60,000台
- アジア大洋州は、5%増の52,000台
- 北米は、13%増の33,000台
- 西欧は、11%増の42,000台
- 日本は、昨年度の排ガス規制の影響により4%減の24,000台
- その他地域は6%減となったが、中東、アフリカでは底打ち感がでてきた

ー19年度の見通しは、先行きの不透明感を反映し、基本線としては、対前年5%台減、222,000台と想定

- 地域別には、中国が8%減の55,000台
- アジア大洋州は8%減の48,000台
- 北米は18年度並みの33,000台
- 一方で、西欧は7%減の39,000台
- 日本は18年度と変わらず24,000台

このような需要台数を想定しているが、2018年度並みの上振れの可能性も考えながら各施策を展開する

- 住宅投資・公共投資は増加、設備投資は横ばい
- 油圧・ミニ・WLの需要は増加（対前年同期 油圧38%増、ミニ5%増、WL13%増）

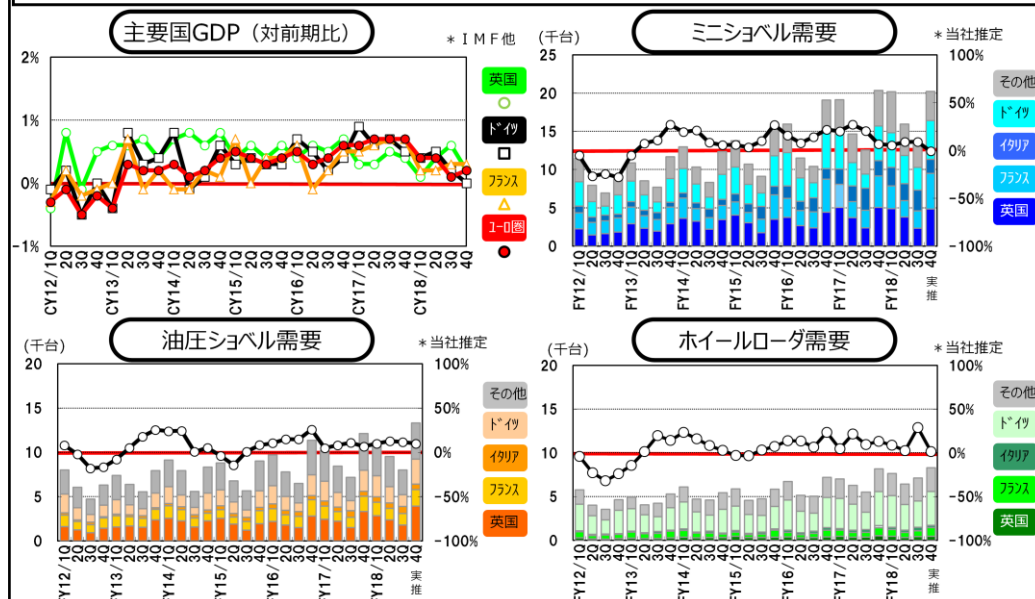


ー第4四半期の住宅投資と公共工事は対前年で増加したが、設備投資は横ばい

ー排ガス規制の需要減に対する回復が見られ、油圧ショベルの需要は対前年同期で38%増、ホイールローダの需要は13%増

ー排ガス規制に伴う前倒し需要の影響がなかったミニショベルは対前年同期で5%増

- ユーロ圏全体のGDP成長率は前期より微増
- 油圧・WL需要で増加、ミニは微減（対前年同期 油圧10%増、WL2%増、ミニ1%減）

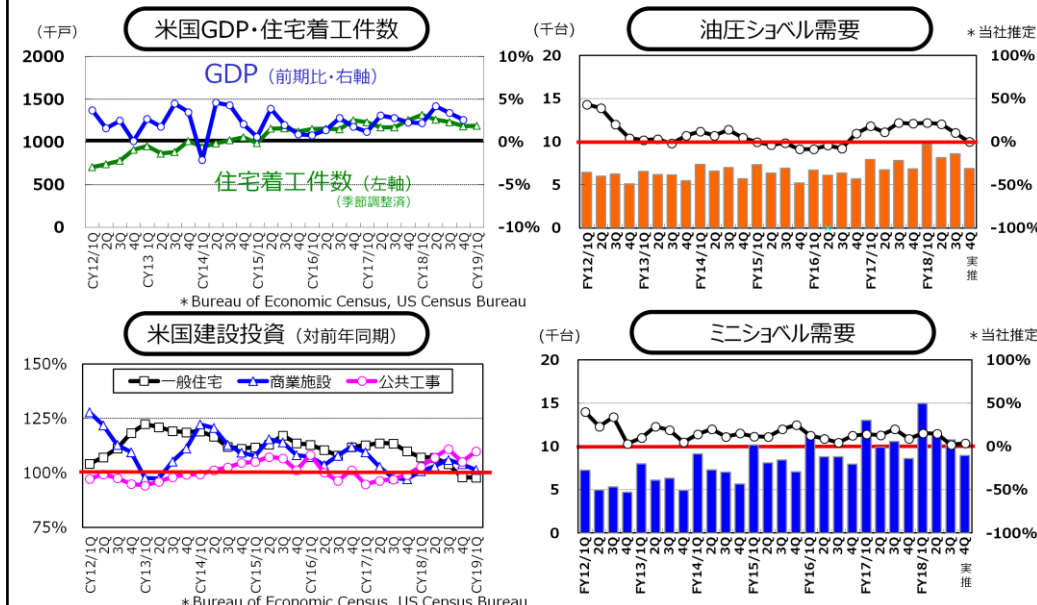


ー主要国並びにユーロ圏全体のGDPは、伸び率が鈍化し、18年第4四半期では微増

ー油圧ショベルは主要国でのインフラ投資に伴う土木工事等に支えられ、欧州全体で対前年同期10%増と引き続き増加。特にドイツで21%、イギリスで20%、フランスで10%伸びた

ーミニショベルとホイールローダは、ミニショベルは1%減、ホイールローダは2%増

- 住宅着工件数は対前年同期で減少、民間建設投資は対前年同期で伸び率鈍化
- 油圧需要は横ばい、ミニ需要は微増（対前年同期 油圧+0%、ミニ+4%）

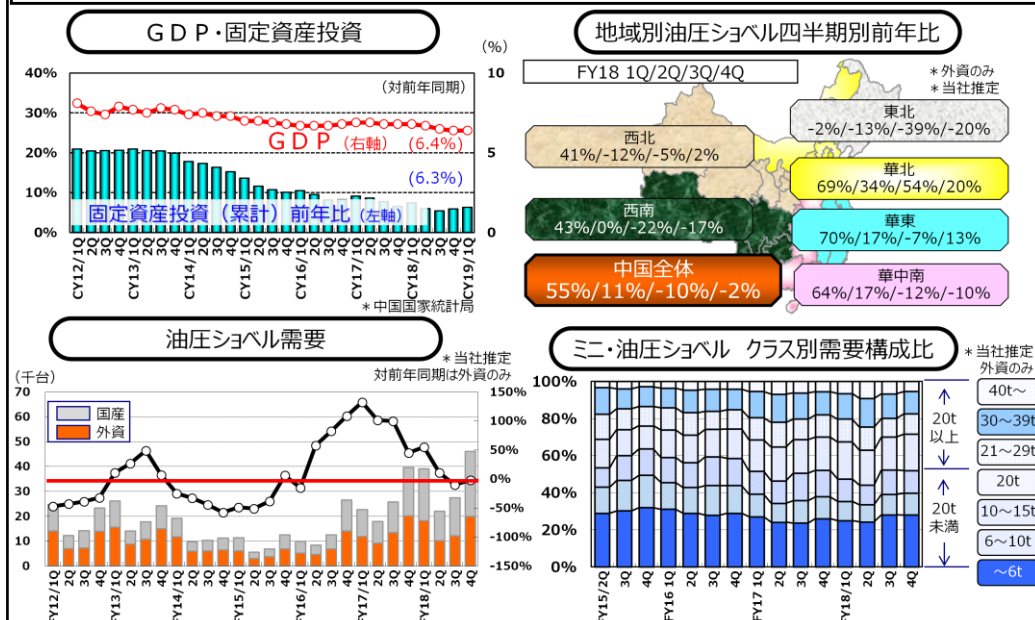


ー米国GDPは2018年第4四半期で2.6%の伸び。住宅着工件数については対前年同期比で減少傾向

ー建設投資は公共工事で増加している一方、一般住宅や商業施設等の民間部門の伸びは鈍化

ー需要は、足元では建設需要の伸び率鈍化等の指標も見受けられ、油圧ショベル需要は対前年同期で横ばい、ミニショベル需要は4%増

- GDP成長率は6.4%
- 油圧需要微減（対前年同期 2%減）※外資のみ



ー19年第1四半期のGDP成長率は6.4%増、固定資産投資は伸び率横ばい

ー工事量自体は減少しているという感覚はなく、直近の稼働率も増加傾向。油圧ショベル需要は、全需要で対前年増・外資需要では対前年同期2%減

ー地域別油圧ショベル需要は、需要構成比の最も高い華東では13%の増加。一方、次に需要構成比の高い華中南・西南でそれぞれ10%以上の減少

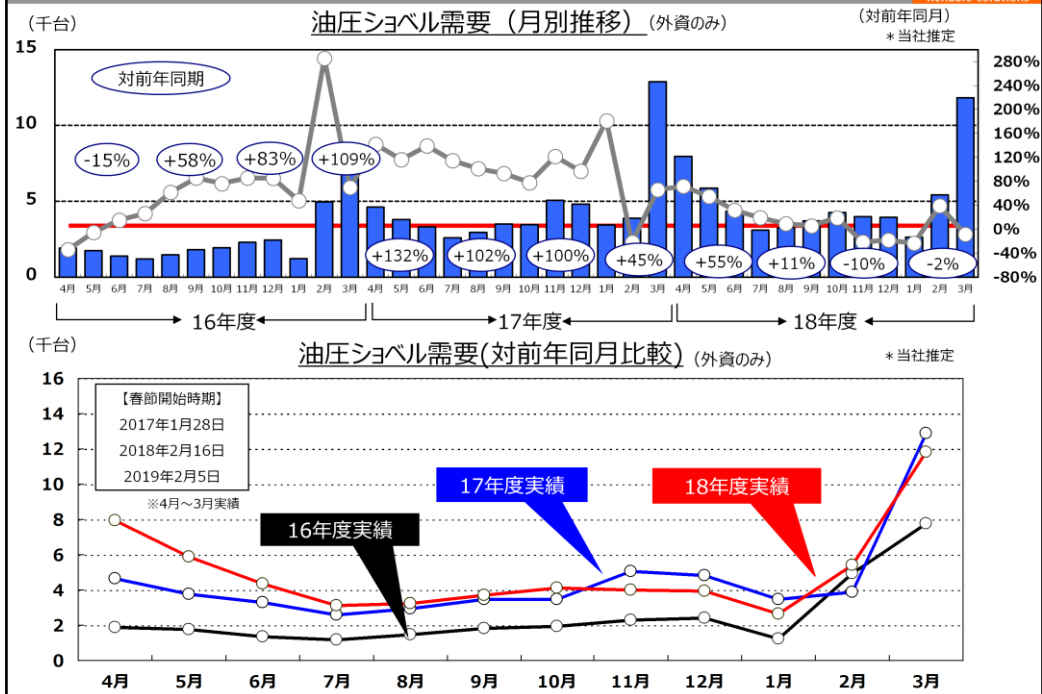
ークラス別需要構成比は、対前年同期比で大きな変動なし

< (補足) 中国市場 >

6

HITACHI

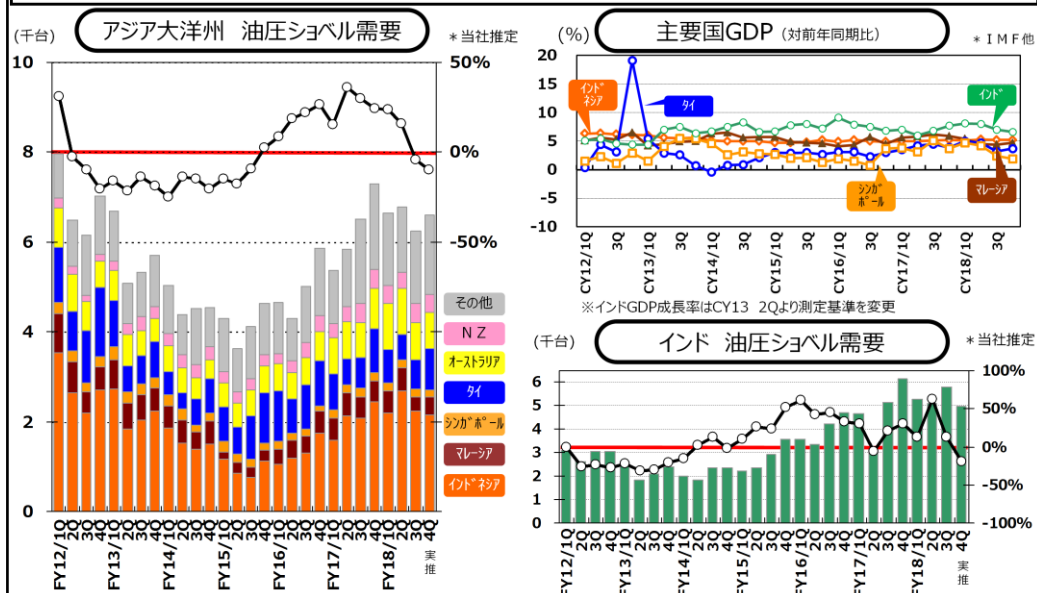
Reliable solutions



ー外資のみの月別油圧ショベル需要推移では、2018年11月から減少傾向が続いており、18年度第4四半期も2%減少

ー18年度前半は前年を上回る需要水準となったが、後半は春節の時期ずれにより需要が増加した2月を除き、11月以降は前年割れの状況が継続

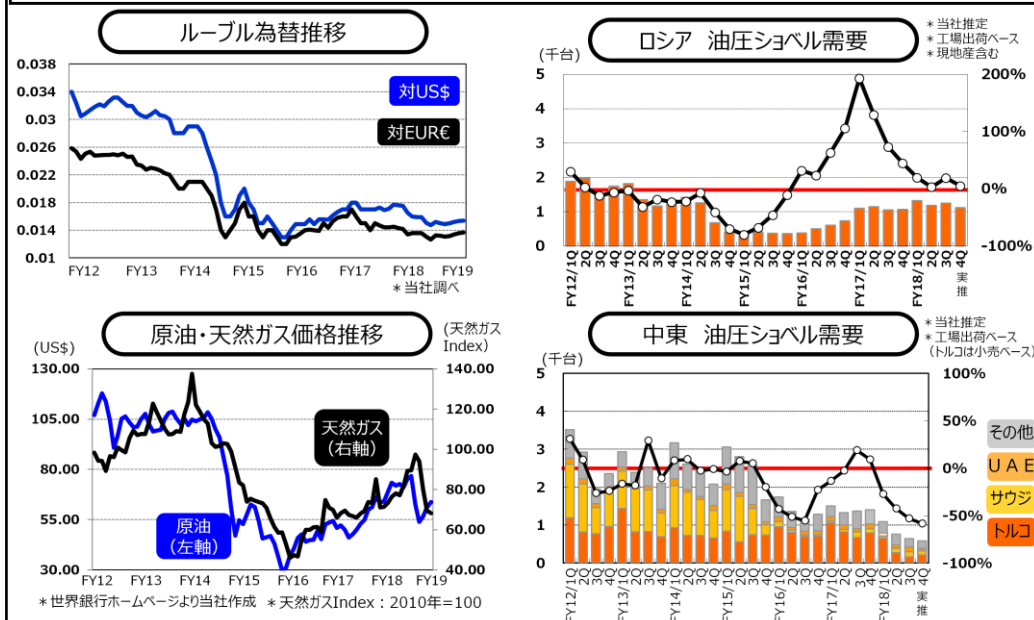
- アジア大洋州の油圧需要はインドネシア、オーストラリア等で減少、全体では対前年同期9%減
- インドの油圧需要は対前年同期で減少しているが、高い需要水準を維持



ーアジア・大洋州の油圧ショベル需要は、第4四半期ではインドネシア・オーストラリアなどで減少、全体では対前年同期9%減

ーインドの油圧ショベル需要は、選挙を控えた一時的な影響により対前年同期で減少したが、高い水準を維持

- ロシアは油圧需要は対前年同期で5%増
- 中東はトルコリラ安の影響を受けて需要が大幅に低下

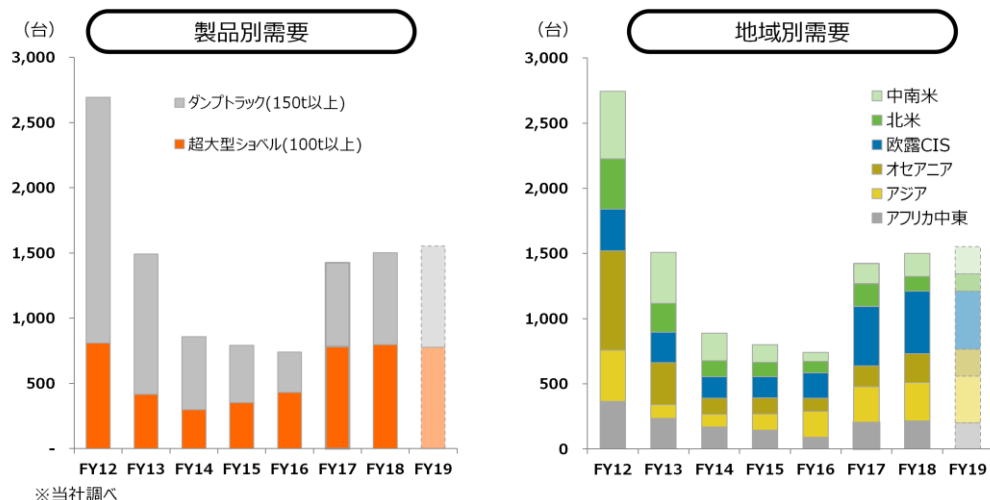


ーロシアの油圧SH需要は、対前年同期で5%増

ー中東の油圧ショベルは、トルコリラ安の影響を受け需要は大幅に低下

- 18年度マイニング需要は若干増の見通し
- 大手鉱山向け運転質量300トン超ショベル、積載質量150トン超ダンプトラックにて需要好調、19年度も堅調の見通し

超大型ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)



ー18年度マイニング需要は、健全な資源価格を背景に昨年度に引き続き好調を維持。対前年では若干増の見通し

ー大手鉱山向け超大型ショベル及びダンプトラックにて需要好調、19年度も堅調な状態が続く見通し

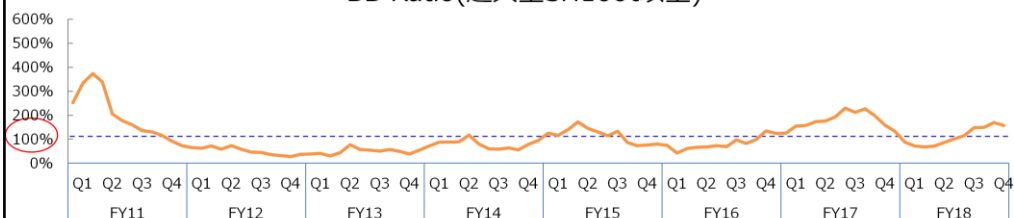
< (補足) BB Ratio >

10

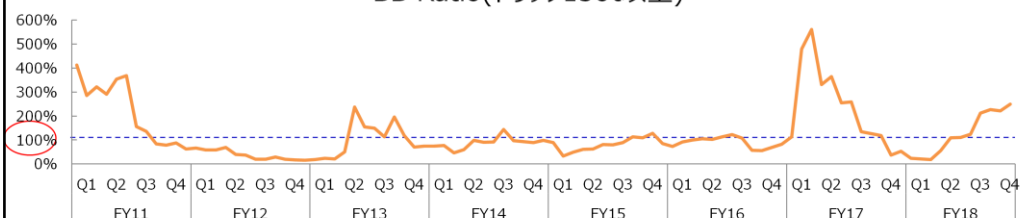
HITACHI

Reliable solutions

BB Ratio(超大型SH100t以上)



BB Ratio(トラック150t以上)



※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額) / Billing(出荷額)

当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

ー超大型ショベル、ダンプトラックのBBレシオは、大手鉱山向け超大型機種を中心に受注が好調に進んでおり、100%以上を維持

モンゴルにて、超大型油圧ショベル 13台、ダンプトラック 17台受注

- ・ EX5600電動式 (運転質量537t) 5台
- ・ EX3600電動式 (運転質量359t) 5台
- ・ EX2600エンジン式 (運転質量254t) 3台
- ・ EH4000AC-3 (積載質量221t) 17台
19年度内納入、稼働開始予定



オーストラリアの3プロジェクトにて、ダンプトラック 38台受注

- ・ EH4000AC-3 8台、EH5000AC-3 (積載質量296t) 6台受注
19年度内納入、稼働開始予定 (将来AHS化予定)
- ・ EH5000AC-3 16台受注
19-20年度にかけて納入、稼働開始予定
- ・ EH5000AC-3 8台受注
19年度内納入、稼働開始予定

ーモンゴルにてマイニングショベル 13台、ダンプトラック 17台を受注し、19年度中の納入、稼働開始を予定。尚、ショベル受注13台の内10台が電動式ショベル

ーオーストラリアの3プロジェクトにてダンプトラックを合計38台受注し、今後順次納入、稼働開始の予定。1つ目のプロジェクトでは将来的にAHS(自律走行)化を予定



新たにオセアニア地域統括会社を設立

オセアニアを統括会社を通じて一帯運営することで、新車、中古車、部品・サービス事業の効率を向上。

バリューチェーンの深化・拡大を加速。

統括会社設立：2019年4月5日



オセアニアにおける部品事業の拡大を担う部品センター



ー重点地域であるオセアニア事業を強化し、さらなる顧客サービス力向上による拡販と部品・サービス収益の拡大のため、今般、オセアニア地域の事業を統括する新会社を設立

ーこれまで、オーストラリアを管轄する日立建機オーストラリア社と、ニュージーランドを管轄するケーブルプライス社の2社を通じて、それぞれの会社が独自に建設機械本体および部品・サービスの供給を実施

ー今回の新会社設立により、オセアニア地域一帯を統括したオペレーションを行い効率的な事業運営を行うとともに、今後も成長が見込まれる同市場で、部品・サービス事業やソリューションを主体としたバリューチェーン事業の強化・拡大を加速

**ドイツKTEG社との合併会社EAC社にて電動ショベルを開発
国際建設機械見本市 bauma 2019に試作機を出展**



電動ショベル(8tクラス)のデモンストレーションと電動ミニショベル(2tクラス) を展示

* 発売については詳細を検討中



デモンストレーションを行う電動ショベル(8tクラス)



※KTEG社:Kiesel Technologie Entwicklung
EAC社:European Application Center

ー欧州代理店のグループ会社(KTEG社)と設立したEAC社が開発したコンセプトモデル2機を先日ドイツで開催されたbauma2019に出展

ーbaumaの日立ブースには2万人の来場者が訪れ、8tクラスの電動ショベルのデモンストレーションには、のべ6000人が見学し、好評を博した

ー今後も環境規制の厳しい欧州で、顧客ニーズに合った製品を積極的に開発する

タタ日立社の工場が太陽光パネル発電に切り替え、 約30%の電力消費量を削減

日本国内での工場の電力の見える化などに続く取り組み。
カラグプール工場の電力消費量の約30%、年間7,000MWhを再生可能エネルギーで賄う。
(CO₂の削減量は年間3,500トン低減)



カラグプール工場敷地内に設置された太陽光パネル



ーインドのタタ日立社は、西ベンガル州にあるカラグプール工場敷地内に設置された太陽光パネルでの発電を開始。これにより、2019年度から電力消費量の約30%にあたる年間約7,000MWhを環境負荷の少ない再生可能エネルギーで賄う。CO₂の削減量は、年間3,500トンの見込み

ータタ日立社では、既にカルナタカ州のダルウッド工場で太陽光パネル発電を開始し、電力消費量の約75%を再生可能エネルギーで賄っており、今回の取り組みはそれに続くもの

ーインドは、経済発展に伴い、電力需要が年々で拡大し、2025年までに欧州連合を上回り、中国と米国に次ぐ電力消費大国になることが見込まれているが、今回の取り組みを通じて、インドの電力供給の安定化、CO₂排出量の削減に貢献していく

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

E N D

お問い合わせ

◎日立建機株式会社
ブランド・コミュニケーション本部

TEL : 03-5826-8152
FAX : 03-5826-8209

HITACHI
Reliable solutions

「ほら、みて！」

昔のものから最新のものまで、幅広い機械が揃いました。全部、日立建機の建設機械です。私たちは初めて国産技術で機械式ショベルを開発・製造し、お客様のニーズに応えるために一丸となって技術を開発してきました。日立ショベル・ミニショベル・ホイールロード・鉱山機械・道路機械…多岐多岐な機械は、今でも世界中で活躍しています。最新の技術とノウハウ、グローバルに誇ります。ぜひ、日立建機を見てみてください。

この色の建設機械を見かけたら、それは、日立建機です。

日立建機株式会社
www.hitachiconstruction.com

持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標に合わせ区分、アイコンを表記し、トピックスの紹介をしています

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

